

2012年9月29日(土)付 朝日新聞朝刊に掲載

「オンリーワン」任せて



電車のシートのクッション材にカバーをかぶせる作業。関東の鉄道で使われる=京都府京田辺市大住

住江工業 本社・京都府京田辺市大住。電車や車などの座席を設計、開発、製造するメーカー。張り替えや部材交換も担当。従業員数は150人(9月現在)。神奈川県や福岡県にも工場がある。2012年3月期の売上高は30億7千万円。

JR、阪急、阪神など関西の主な鉄道から自動車、船舶まで、乗り物用のシートの生産を続ける住江工業。「オンリーワン」を追い求める顧客からの難しい注文にもきめ細かく応じる姿勢が業界で高く評価されている。近年は海外の鉄道でも広く使われている。

JR、阪急、阪神など関西の主な鉄道から自動車、船舶まで、乗り物用のシートの生産を続ける住江工業。「オンリーワン」を追い求める顧客からの難しい注文にもきめ細かく応じる姿勢が業界で高く評価されている。近年は海外の鉄道でも広く使われている。

近畿の底ぢがら

乗り物用シートの住江工業

A(E)のドバイのモノレールなどでも実績がある。

大勢の人が利用する手段だけに燃えにくい素材を選び、スピードが求めら

れる車両には丈夫で軽いアルミを使うことが多いと

いう。「体圧分布の測定な

どによって科学的にも快適さを追求しています」と設

計・開発セクションの清水

正英さん(44)

自動車の普及が進むとど

もに自動車シートの製造に

も力を入れた。83年、堺市

などにあった拠点計3カ所

を統合して京都府京田辺市

に移転した。

かつては「量産型」だっ

たが、近年は「多品種の少

量生産」がモットー。

人口減少の時代、各鉄道会社は

「ユニークな座席で乗客を

呼びたい」と考える傾向に

あるからだ。「高級感があ

るよう」「非日常感があ

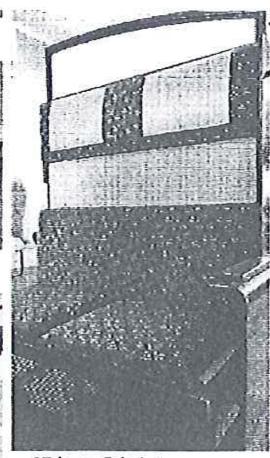
るよう」など多様なニーズに

も対応できるようにしてい

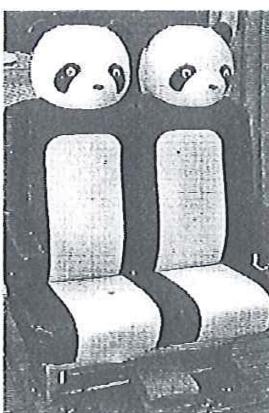
るという。

例えば、九州新幹線の「つばめ」の座席は、背もたれやひじかけに木材を使

科学的にも快適さ追求



阪急の「京どれいん」の座席



JR西日本の特急「くろしお」のパンダシート=住江工業提供

い、高級感が漂うように仕上げた。JR西日本の特急「くろしお」に採用され、子どもに人気の「パンダシート」は、かわいいパンダを追求した力作。阪急の「京どれいん」は、座席の一部に畳を使い、「和」の雰囲気を演出した。今後はどのような製品が求められるでしょう?

(原知恵子)

九州新幹線「つばめ」の座席

これまでに手がけてきた座席